

ドングリ調査を体験して

これまでに奄美大島、徳之島、やんばるでドングリ豊凶モニタリング調査を実施し、各島で活動する皆さんにも調査に参加して頂きました。調査に参加された皆さんや協力者の声をご紹介します。

2020年の調査に参加・協力いただいた皆さんの声

この年は凶作傾向でした

調査し始めは、なかなかドングリが見つけれず心が折れそうでした。あとで分かったのですが、調査対象のメインとなるスタジイが凶作だったので。それでもアマミアラカシは豊作の木があり、カウンターの操作が追いつかないほど沢山の実を、双眼鏡で確認することができました。ドングリがいっぱいあるというだけで何だか嬉しくなるこの感覚を、もっと多くの人に体験してもらいたいです。

NPO法人徳之島虹の会 寛山一郎

奄美大島においてシイの実、ルリカケスなどの鳥類、アマミノクロウサギなどの哺乳類等、多くの動物の食物となっています。不作の年にはルリカケスの繁殖成功率が低くなったり、リュウキュウイノシシが農地に多く出現したりと、いろいろな影響が出てくるようです。これから豊凶調査を続け、森の食物連鎖を解明していきたいと思います。

NPO法人奄美野鳥の会 鳥飼久裕

初めての経験で双眼鏡も覗き慣れていないからか、少しばかり酔ってしまいました。しかし、続けて参加するうちに調査方法にも慣れ、目的や意義を少しずつ理解でき興味がどんどん湧いてきました。リモート報告会では豊凶の年が奄美・徳之島・沖縄島の3島で概ね同調しているということが印象に残りました。何の影響でそうなるのか、調査を続けることで明らかになってくると面白いと思います。これからも継続して調査したいです。

沖縄県立辺土名高校環境科
金城永都

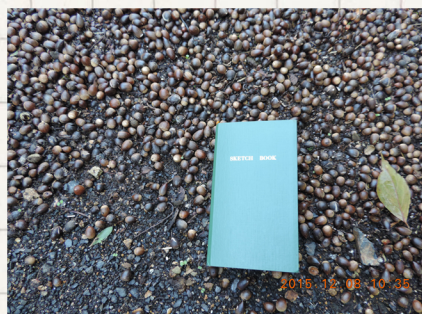
同じイタジイでも島毎に生り具合が違っていたり、それを食べる生き物も違うのでとても興味深かったです。ドングリを調べることで、その年の森の様子を少し想像できたり、ドングリが不作の年には農作物への食害の予想出来たり…ドングリを調べることで森と人間とのつながりを感じることができました。これからも調査を続けていきたいです。

Yambaru Green 久高奈津子

【プロジェクト代表者より】

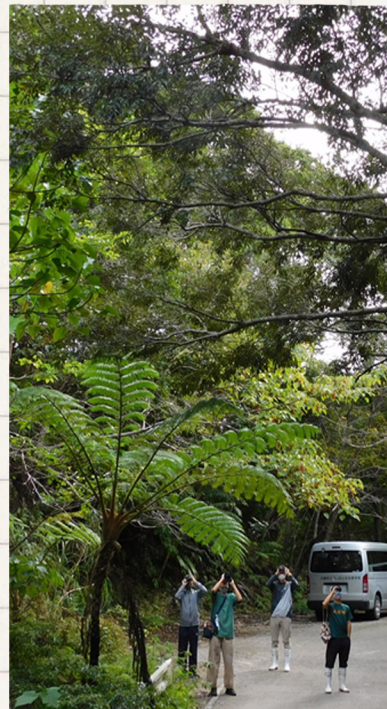
オキナワトゲネズミの個体群動態との関係を詳細に知りたくて、スタジイ豊凶モニタリングを提案しました。2015年からの調査で、固有のネズミ類やイノシシとの関係が徐々に見えてきました。個人的には今年の調査でスタジイの虫こぶがスタジイタマバエのものであるという発見もありました。毎年秋のドングリ調査を通じて、新たな発見を楽しみながら中琉球の島間の交流が深まっていくように願っています。

森林総合研究所九州支所 小高信彦



大豊作の時のイタジイ

樹幹には鈴生り。林道では路上を埋め尽くすほどのイタジイの実。



沖縄島北部での活動

辺土名高校環境科・サイエンス部
による調査の様子。



奄美大島での活動

NPO法人奄美野鳥の会のメンバー
と金作原国有林にて調査。

